社会科シラバス　中学歴史

1. 学習の到達目標と評価の観点

	単位数	学科・学年・学級	使用教科書と補助教材
（科目） **歴史**	週２時間 ×２年 ※3 年次は週 3 時間	第１・２学年 第３学年１学期	**中学社会歴史的分野（日本文教出版）**
学習の到達目標	(1) 人間を取り巻く環境や、身の回りでおこるさまざまな事象、また人間存在そのものに対して自然科学と社会科学両面から幅広い視野を持って探究する姿勢を育て、得られた歴史的知識・読解力など情報を活用する技能を実社会の問題解決に役立てる態度を養う。（Science） (2) 異なる文化や価値観に対する理解と日本の今日の姿や歴史・文化などに対する理解を深め、それらを尊重しながら、日本に生活の基盤を置く者としての考えや価値観を世界に発信できる力を養い、現在世界で起きているさまざまな問題を解決するために多種多様な人びとと協調できる人間になる。（Global） (3) 歴史の学習活動を通じて、相手の立場に立って考える姿勢を磨くとともに、人文科学・社会科学の基礎的な知識を結びつけ、論理的に活用する能力を獲得し、変化の激しいこれからの時代を生き抜き、明るい未来を切り拓いていくための教養を身につける。（Liberal Arts）		
評価の観点	＜主体性・多様性・協働性＞		
	＜思考力・判断力・表現力＞		
	＜知識・技能＞		

【点数化が難しい課題については、観点別評価とする。】

Ａ：「十分満足できる」状況と判断されるもの・・・・・100%

Ｂ：「おおむね満足できる」状況と判断されるもの・・・ 80%

Ｃ：「努力を要する」状況と判断されるもの　・・・・・ 60%

Ｄ：未提出，未実施　・・・・・ 0%

中学３年生

月	単　元	学習のねらい	学習のポイント，使用教材等
４月	第二部 　大正デモクラシーの時代 1. 大正デモクラシー 2. 社会運動の広がり 3. 都市化の進展と大衆文化 第三部 世界恐慌と日本 1. 世界恐慌と各国の反応 2. 日本の恐慌と東アジア情勢 3. 日本の進路を変えた満州事変 4. 日中全面戦争と戦時体制	○世界のどのような流れを受けて国内でデモクラシーの風潮がでてきたのかをつかむ。同時にそれに対して政府がどう対処し、社会がどう変化していったかを理解する。 ○恐慌を起点になぜ日本は満州事変から戦争への道を突き進んでいったのかを考える。 ○戦争への道を進むに当たってどうして止められなかったのかを知り、戦時体制の構築の過程を理解する。	・大正デモクラシーとその社会的、政治的影響を確認する。 ・満州事変の流れとそこからの日中戦争から太平洋戦争までの流れを整理する。 ・戦争の過程の中で民衆はドンのように生き、戦時中を過ごしていたのかを確認する。
５月	第四部 第二次世界大戦と日本 1. 第二次世界大戦のはじまり 2. アジア・太平洋での戦争 3. 戦時下の国民の生活 4. 第二次世界大戦の終結 第６編　現代の世界と日本 第一部 平和と民主化 1. 占領と改革の始まり 2. 平和で民主的な国家を目指して 3. 敗戦直後の社会と文化 4. 第二次世界大戦後の世界 5. 国際社会への復帰と55年体制	○戦争で一体どんなことがおこり、日本にとって大きな影響があったこと、戦争の悲惨さを知る。 ○戦後、どのように日本が制度を変えて国際社会へ復帰していったのかその道のりを知る。	・戦後の改革の全体像を把握し理解する。
６月	第二部 冷戦下の世界と経済大国化する日本 1. 東西対立と緊張緩和 2. 冷戦下のアジアと日本 3. 高度経済成長	○国際社会の変化と現代に残るそのつながりを確認する。	・なぜ冷戦が起こり、それが日本とどのような関係があるのか、東アジア情勢がどのように変化していったのか、整理する。

評価の観点及び内容	評価方法（具体例）
＜主体性・多様性・協働性＞	①：授業中のワークへの取り組み・授業への参加具合(30%)
＜思考力・判断力・表現力＞	②:定期試験(35%)
＜知識・技能＞	③:定期試験(35%)

社会科シラバス　中学３年

1. 学習の到達目標と評価の観点

	単位数	学科・学年・学級	使用教科書と補助教材
（科目） **社会（公民分野）**	週３時間	第３学年	**・中学社会公民的分野（日本文教出版）**
学習の到達目標	（1）モデル化・一般化などの数学的思考が、経済システムや金融など、社会の諸分野の基礎を支えていること、社会環境の解明に有用であることを理解し、そうした見方や考え方を身につける。情報やメディアの科学的な理解を深めつつ、情報活用の実践力を身につけ、情報社会に積極的に参加する態度や好奇心を養う。（Science） （2）時事問題やニュースを通して、世界各地で起きている問題や日本の今日の姿への理解を深め、日本に生活の基盤を置くものとして、あるべき世界の姿を模索し、自分の考えを発信する力を養う。SDGs の「誰一人取り残さない」という精神を念頭に、世界全体を俯瞰するグローバルな視点と、地域の問題を掘り下げて把握するローカルな視点を併せ持つ柔軟な思考力を養う。（Global） （3）人権学習を通して、相手の立場に立って考える姿勢を大切にし、よりよい人間関係を築くことができる、あるべき平和で豊かな社会を求める姿勢を育てる。（Liberal Arts）		
評価の観点	＜主体性・多様性・協働性＞		
	＜思考力・判断力・表現力＞		
	＜知識・技能＞		

【点数化が難しい課題については、観点別評価とする。】

Ａ：「十分満足できる」状況と判断されるもの・・・・・100%

Ｂ：「おおむね満足できる」状況と判断されるもの・・・ 80%

Ｃ：「努力を要する」状況と判断されるもの　・・・・・ 60%

Ｄ：未提出，未実施　・・・・・ 0%

2. 学習計画及び評価方法等

月	単　元	学習のねらい	学習のポイント，使用教材等
6月 7月	公民分野は１学期の中間考査後(月)から実施(予定)。 【個人の尊重と日本国憲法】 ①法に基づく政治と日本国憲法 ②日本国憲法と基本的人権	○法に基づく政治，日本国憲法の基本的原則及び天皇の地位と国事に関する行為について理解する。 ○日本の政治が日本国憲法に基づいて行われていることの意義について多面的・多角的に考察する力，思考・判断したことを説明する力を養う。 ○法に基づく政治と日本国憲法について，現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする態度を養う。 ○日本国憲法を基に，人間の尊重についての考え方を理解する。 ○日本国憲法で基本的人権が保障されていることの意義について多面的・多角的に考察する力，思考・判断したことを説明する力を養う。 ○日本国憲法と基本的人権について，現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする態度を養う。	教科書：「日本文教出版　中学社会　公民的分野」 ○主権とは何か、天皇の役割について、大日本帝国憲法と日本国憲法の比較を通じて考えられるか。(Liberal arts) ○自由・平等とはどのようにして保障されているのか、世界の歴史と関連して考える。(Global) ○国内・国外におけるマイノリティに対する差別の実態を理解し、差別のない社会を作るためにどうすれば良いか考える。(Liberal arts)
9月 10月 11月	③日本の平和主義 【国民主権と日本の政治】 ①民主政治と政治参加 ②国の政治のしくみ ③くらしを支える地方自治 【私たちの生活と経済】 ①経済のしくみと消費生活 ②生産の場としての企業	○日本国憲法の三大原則として平和主義がどのように機能しどのような目的で作られたかを知る。 ○政治のあり方としてどのように国民が政治に関わり支えているかを理解する。 ○より直接的な民主主義の機会として地方自治があること、国政との違いを理解する。 ○我々の生活を支える経済の基礎を理解し、実社会との関連を見いだし積極的に関わろうとする精神を育てる。	・平和とはどのようなものか考え、どのように達成しようとしているのかを理解する。(Liberal arts) ・私たちと政治との関連を見ながら、身近なモノであることに気づく。(Liberal arts) ・自分達の意見がそのまま政治に反映されている実情がどの程度あるかを地方自治を実例に考える。(Liberal arts) ・消費や生産との関わりを通じて身の回りのモノがどのようにして手元に届くのかを科学的に理解する。(Science)

1 月 2 月	③金融のしくみとお金の大切さ ④財政と国民の福祉	○金融機関の仕組みやその成り立ちを理解し、我々の周囲でお金がどのように機能し、流通し、意味しているのかを知る。 ○国家がどのように財政を管理し、我々の税金がどのように使われているのを知り、国家や財政に対する関心を持てるようにする。	・為替相場や需要供給曲線の仕組みを知り、実生活において物の値段が決定していく過程を理解しその理由を推測する。(Science) ・予算の使い方から社会保障制度についても考え、自分達がどのような制度に守られ、どう存続、改善させていくべきか考える。 (Science・Liberal arts)

社会科シラバス　中学３年

1. 学習の到達目標と評価の観点

	単位数	学科・学年・学級	使用教科書と補助教材
（科目） **社会探究**	１単位	第３学年	**教材は随時配信**
学習の到達目標	・多摩市が抱えている問題は、世界が抱えている問題でもあるという問題意識を高め、問題の解決のために自分自身に何ができるか、多角的な視点を踏まえ考察し、得られた知識・技能を実社会に役立てようとする意欲を養う〔Science/Global〕 ・現代社会のニュースなどをもとに平和に対する理解を深め、それに対する自分の考えを世界に向けて発信できる力を養うと同時に、他者の発信を聞くことで、異なる文化や価値観に対する理解を深め、それらを尊重する。〔Global〕 ・変化の激しいこれからの時代を生き抜くためにも、積み重ねてきた知識や経験をもとに形成した自らの考え・問題意識・価値観を他者にしっかりと伝え、未来社会のために自身がどのように貢献できるか実践する姿勢を身につける。〔Liberal Arts〕		
評価の観点	＜主体性・多様性・協働性＞		
	＜思考力・判断力・表現力＞		
	＜知識・技能＞		

【点数化が難しい課題については、観点別評価とする。】
Ａ：「十分満足できる」状況と判断されるもの・・・・・100%
Ｂ：「おおむね満足できる」状況と判断されるもの・・・ 80%
Ｃ：「努力を要する」状況と判断されるもの　・・・・・ 60%
Ｄ：未提出，未実施　・・・・・ 0%

2、学習内容及び評価方法

月	単　元	学習のねらい	学習のポイント，使用教材等
4月 5月 6月	**【平和を考える】** ★歴史的アプローチ ○ウクライナ戦争に関する資料の閲覧や調べ学習 ○広島修学旅行に向けた平和学習	・現時点で世界の大きな出来事となっているウクライナにおける戦争を紹介し、自らその情報を調べ双方の狙いや国際状況を理解する。 ・より正確な情報を吟味し、安直な情報に惑わされないメディアリテラシーを身につける。 ・過去の戦争での実例やその過ちを知ることで、平和を願う心を養い、平和について自ら考えられるようになる。	・世界の出来事に関する興味関心を深められているか。(Global,LiberalArts) ・かつて、または現在の戦争を自分ごとと捉え、解決のために自分が何ができるかを考えられるか。(Global,LiberalArts)
9月 10月 11月	**【多摩地域を考える】** ★地理的アプローチ ○「自治体プレゼン選手権」 ～我がまちの魅力再発見～	・自分の住む、ないしは近隣の自治体を中心に魅力の再発見を行い、グループごとのプレゼンテーションを行う。 ・自分の住む地域のことをよく知り、多摩地域の現状をよく理解する。良い面や課題を発見し、今後の社会を良くしていくために何ができるかを考える。	・自分の住む地域のことをよく理解出来たか。(LiberalArts) ・その地域のことをうまく相手に伝え、行ってみたいと思わせることができるか。(LiberalArts)
1月 2月	**【経済を考える】** ★公民的アプローチ ○会社設立ワーク	・社会の授業で学んだ株式会社の仕組みを応用し、自分達が考える株式会社に投資を呼び込む説明会を行う。 ・事業計画や実現可能性、投資の回収可否など、現実的かつ斬新なビジネスアイデアを募集する。	・会社の仕組みを理解し、適切な事業計画を立てることができたか。(Science,LiberalArts) ・投資家にとって魅力的な会社として投資を読み込めるか、またその魅力を表現できるか。(Global,LiberalArts)

評価の観点及び内容	評価方法（具体例）
＜主体性・多様性・協働性＞	授業内での取り組みや課題の提出
＜思考力・判断力・表現力＞	授業内での発表やプレゼン
＜知識・技能＞	授業内での課題の提出等

社会科シラバス　中学３年

1. 学習の到達目標と評価の観点

	単位数	学科・学年・学級	使用教科書と補助教材
（科目） **社会（公民分野）**	週３時間	第３学年	**・中学社会公民的分野（日本文教出版）**
学習の到達目標	（1）モデル化・一般化などの数学的思考が、経済システムや金融など、社会の諸分野の基礎を支えていること、社会環境の解明に有用であることを理解し、そうした見方や考え方を身につける。情報やメディアの科学的な理解を深めつつ、情報活用の実践力を身につけ、情報社会に積極的に参加する態度や好奇心を養う。（Science） （2）時事問題やニュースを通して、世界各地で起きている問題や日本の今日の姿への理解を深め、日本に生活の基盤を置くものとして、あるべき世界の姿を模索し、自分の考えを発信する力を養う。SDGs の「誰一人取り残さない」という精神を念頭に、世界全体を俯瞰するグローバルな視点と、地域の問題を掘り下げて把握するローカルな視点を併せ持つ柔軟な思考力を養う。（Global） （3）人権学習を通して、相手の立場に立って考える姿勢を大切にし、よりよい人間関係を築くことができる、あるべき平和で豊かな社会を求める姿勢を育てる。（Liberal Arts）		
評価の観点	＜主体性・多様性・協働性＞		
	＜思考力・判断力・表現力＞		
	＜知識・技能＞		

【点数化が難しい課題については、観点別評価とする。】

Ａ：「十分満足できる」状況と判断されるもの・・・・・100%

Ｂ：「おおむね満足できる」状況と判断されるもの・・・ 80%

Ｃ：「努力を要する」状況と判断されるもの　・・・・・ 60%

Ｄ：未提出，未実施　・・・・・ 0%

2. 学習計画及び評価方法等

月	単　元	学習のねらい	学習のポイント，使用教材等
6月 7月	公民分野は１学期の中間考査後(月)から実施(予定)。 【個人の尊重と日本国憲法】 ①法に基づく政治と日本国憲法 ②日本国憲法と基本的人権	○法に基づく政治，日本国憲法の基本的原則及び天皇の地位と国事に関する行為について理解する。 ○日本の政治が日本国憲法に基づいて行われていることの意義について多面的・多角的に考察する力，思考・判断したことを説明する力を養う。 ○法に基づく政治と日本国憲法について，現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする態度を養う。 ○日本国憲法を基に，人間の尊重についての考え方を理解する。 ○日本国憲法で基本的人権が保障されていることの意義について多面的・多角的に考察する力，思考・判断したことを説明する力を養う。 ○日本国憲法と基本的人権について，現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする態度を養う。	教科書：「日本文教出版　中学社会　公民的分野」 ○主権とは何か、天皇の役割について、大日本帝国憲法と日本国憲法の比較を通じて考えられるか。(Liberal arts) ○自由・平等とはどのようにして保障されているのか、世界の歴史と関連して考える。(Global) ○国内・国外におけるマイノリティに対する差別の実態を理解し、差別のない社会を作るためにどうすれば良いか考える。(Liberal arts)
9月 10月 11月	③日本の平和主義 【国民主権と日本の政治】 ①民主政治と政治参加 ②国の政治のしくみ ③くらしを支える地方自治 【私たちの生活と経済】 ①経済のしくみと消費生活 ②生産の場としての企業	○日本国憲法の三大原則として平和主義がどのように機能しどのような目的で作られたかを知る。 ○政治のあり方としてどのように国民が政治に関わり支えているかを理解する。 ○より直接的な民主主義の機会として地方自治があること、国政との違いを理解する。 ○我々の生活を支える経済の基礎を理解し、実社会との関連を見いだし積極的に関わろうとする精神を育てる。	・平和とはどのようなものか考え、どのように達成しようとしているのかを理解する。(Liberal arts) ・私たちと政治との関連を見ながら、身近なモノであることに気づく。(Liberal arts) ・自分達の意見がそのまま政治に反映されている実情がどの程度あるかを地方自治を実例に考える。(Liberal arts) ・消費や生産との関わりを通じて身の回りのモノがどのようにして手元に届くのかを科学的に理解する。(Science)

1 月 2 月	③金融のしくみとお金の大切さ ④財政と国民の福祉	○金融機関の仕組みやその成り立ちを理解し、我々の周囲でお金がどのように機能し、流通し、意味しているのかを知る。 ○国家がどのように財政を管理し、我々の税金がどのように使われているのを知り、国家や財政に対する関心を持てるようにする。	・為替相場や需要供給曲線の仕組みを知り、実生活において物の値段が決定していく過程を理解しその理由を推測する。(Science) ・予算の使い方から社会保障制度についても考え、自分達がどのような制度に守られ、どう存続、改善させていくべきか考える。 (Science・Liberal arts)

社会科シラバス　中学３年

1. 学習の到達目標と評価の観点

	単位数	学科・学年・学級	使用教科書と補助教材
（科目） **社会探究**	１単位	第３学年	**教材は随時配信**
学習の到達目標	・多摩市が抱えている問題は、世界が抱えている問題でもあるという問題意識を高め、問題の解決のために自分自身に何ができるか、多角的な視点を踏まえ考察し、得られた知識・技能を実社会に役立てようとする意欲を養う〔Science/Global〕 ・現代社会のニュースなどをもとに平和に対する理解を深め、それに対する自分の考えを世界に向けて発信できる力を養うと同時に、他者の発信を聞くことで、異なる文化や価値観に対する理解を深め、それらを尊重する。〔Global〕 ・変化の激しいこれからの時代を生き抜くためにも、積み重ねてきた知識や経験をもとに形成した自らの考え・問題意識・価値観を他者にしっかりと伝え、未来社会のために自身がどのように貢献できるか実践する姿勢を身につける。〔Liberal Arts〕		
評価の観点	＜主体性・多様性・協働性＞		
	＜思考力・判断力・表現力＞		
	＜知識・技能＞		

【点数化が難しい課題については、観点別評価とする。】
Ａ：「十分満足できる」状況と判断されるもの・・・・・100%
Ｂ：「おおむね満足できる」状況と判断されるもの・・・ 80%
Ｃ：「努力を要する」状況と判断されるもの　・・・・・ 60%
Ｄ：未提出，未実施　・・・・・ 0%

2、学習内容及び評価方法

月	単　元	学習のねらい	学習のポイント，使用教材等
4月 5月 6月	**【平和を考える】** ★歴史的アプローチ ○ウクライナ戦争に関する資料の閲覧や調べ学習 ○広島修学旅行に向けた平和学習	・現時点で世界の大きな出来事となっているウクライナにおける戦争を紹介し、自らその情報を調べ双方の狙いや国際状況を理解する。 ・より正確な情報を吟味し、安直な情報に惑わされないメディアリテラシーを身につける。 ・過去の戦争での実例やその過ちを知ることで、平和を願う心を養い、平和について自ら考えられるようになる。	・世界の出来事に関する興味関心を深められているか。(Global,LiberalArts) ・かつて、または現在の戦争を自分ごとと捉え、解決のために自分が何ができるかを考えられるか。(Global,LiberalArts)
9月 10月 11月	**【多摩地域を考える】** ★地理的アプローチ ○「自治体プレゼン選手権」 ～我がまちの魅力再発見～	・自分の住む、ないしは近隣の自治体を中心に魅力の再発見を行い、グループごとのプレゼンテーションを行う。 ・自分の住む地域のことをよく知り、多摩地域の現状をよく理解する。良い面や課題を発見し、今後の社会を良くしていくために何ができるかを考える。	・自分の住む地域のことをよく理解出来たか。(LiberalArts) ・その地域のことをうまく相手に伝え、行ってみたいと思わせることができるか。(LiberalArts)
1月 2月	**【経済を考える】** ★公民的アプローチ ○会社設立ワーク	・社会の授業で学んだ株式会社の仕組みを応用し、自分達が考える株式会社に投資を呼び込む説明会を行う。 ・事業計画や実現可能性、投資の回収可否など、現実的かつ斬新なビジネスアイデアを募集する。	・会社の仕組みを理解し、適切な事業計画を立てることができたか。(Science,LiberalArts) ・投資家にとって魅力的な会社として投資を読み込めるか、またその魅力を表現できるか。(Global,LiberalArts)

評価の観点及び内容	評価方法（具体例）
＜主体性・多様性・協働性＞	授業内での取り組みや課題の提出
＜思考力・判断力・表現力＞	授業内での発表やプレゼン
＜知識・技能＞	授業内での課題の提出等